

# I 学生による授業評価(試行)の概要

## I-1 背景

わが国の大学では、教員が黒板の前でストレート・トーク型の講義をし、学生がそれを黙々と聞いてひたすらノートをとるとというのが通常の授業の伝統的な理想型であった。昨今の学生は、私語をしたり居眠りをしたり内職に励んだりあるいは机下でメールを打ったりする者が決して少なくなく、やや趣が異なっているようであるが、教員の側からの一方的講義という点では多くの授業がその伝統を忠実に踏襲しているといえるだろう。そのような中では、学生からの質問や意見など、つまり講義内容への積極的な反応をあまり期待できず、教員の側では自分の講義がどのように学生に伝わり受け入れられているか、また意図したとおりの内容になっているか否かを、試験によって事後的、間接的かつ代替的に知るほかはない。

放送大学は、日本の大学におけるそうした「一方向教育」を、最もはっきりした形で行わざるを得ないよう運命づけられた大学であるといえる。それは、放送大学が、放送という一方向のメディアに全面的に依拠することで、教員と学生とのコミュニケーションを保つのが難しいとされる従来の通信制大学よりも、さらにいっそう学生からのフィードバックが期待しにくい構造を持っているからである。放送大学では、今回の調査時点の2005年度第1学期現在、94,804人の学部学生・大学院生に対し、367科目(学部科目296、大学院科目71)、738単位をテレビとラジオを通じて提供している。1つの科目は、①150～250頁程度の印刷教材を読み、②週1回、45分ずつのテレビまたはラジオによる放送授業を視聴し、③学期の半ばに実施される郵便による通信指導を受け、④全国57か所に設けられた学習センターまたはサテライトスペースで学期末の単位認定試験を受けて合格点を取る、というプロセスを経て修学される。このうち①と②の、いわば大学の授業の根幹をなす部分がまったくの片道、つまり教える側からの一方的な教育ということになる。しかも放送授業と印刷教材は、テレビ、ラジオとも原則として更新が4年毎となっているため、その科目が学生の立場から見ると満足のものか否かにかかわらず、4年間は完全に同じ内容の授業が提供されることになるのである。

しかし一方で、放送大学はこれまでわが国になかった新しいタイプの公開大学であり、入試がなく学生の属性や能力に関する情報がない、先例に乏しい、教員の側もメディアを利用する教育の経験が十分であるとは限らない、等々の事情があるため、学生をはじめとするさまざまな評価の結果を基にした授業改善が必要にして不可欠である。つまり放送大学は、構造

的に学生からの評価を得ることが困難であるにもかかわらず、その評価を不可欠とするような位置に置かれているという、一種のジレンマを内包した教育機関だということができるのである。

しかも、問題を一層複雑にしているのは、放送大学の授業が、一般の大学のように一種の閉じた空間で行われているのではなく、誰もがアクセスできる印刷媒体と放送媒体によってなされているという事実である。当然のことながらエリア内には放送大学の学生以外の視聴者、とりわけ学問領域を同じくする専門家や同業者も少なからず居住しているため、好むと好まざるとにかかわらず、カメラの前で講じたものが彼らの目に触れる機会も多い。また印刷教材も一般に市販されており、誰でもその内容に接することができる。その結果、実際にそうした専門家や同業者からのフィードバックもしばしば行われる。それは一種のピア・レビューだと考えることができる。しかも、そのこと以上に重要なのは、教材を作成する際にピア・レビューを想定して担当者がさまざまな事前の自主規制をすることである。つまり、放送大学の授業科目は、最も重要な教育対象である学生ではなく、学問的専門家集団の反応を事前に想定しながら作成されがちであるという傾向も強く有しているのである。もちろんそうした自主規制は、事実関係の明らかな誤りを未然に防ぎ、教材の学問的な水準を一定の高さに保つ上では効果的である。しかし一方で、教材の内容を遊びや冒険のない、無難にまとまった、学習者の側から見て面白味のないものにしてしまう要因になっているという指摘もある。

そうした背景のもとに、放送大学では、隣接するメディア教育開発センター(旧放送教育開発センター)の協力を得て、開講の年(1985年)から継続して学生調査をはじめとする各種の調査を実施してきた。その中には、放送大学の提供する教育全般についての評価項目が欠かさず入れられてきた。そうした調査の結果を学生による教育評価と見ることはもちろん妥当である。そのような調査の結果から、これまでに多くの教育内容やシステムの改善がなされてきたことも事実である。しかし、そうした調査から個々の科目の内容や番組としての質について学生の評価を知ることはできない。そして、その情報が継続的に得られるという条件なしに個々の科目の改善をすることも、また困難であることはいうまでもない。そこで、個々の科目に受講登録をして実際に遠隔地で学習している学生に、科目名を特定した上でその科目についての評価を尋ねる、つまり学生による科目評価を調査の形で継続的に実施することが必要となったのである。

## I - 2 目的

科目評価は、個々の科目に対する学習者の視点からの具体的で詳細なフィードバックを得ることを企図して実施される調査である。その意味では、まさに字義通りの授業評価であるが、2005年度の調査は、今後放送大学で同様の科目評価を継続的に実施していくことの妥当性について検討し、さらにその効果や実施に関わるさまざまな問題を把握するための試行という意義をも有していることに鑑み、「学生による授業評価(試行)」(以下、授業評価と略記)という呼称を付すことにした。その主な目的は、次の通りである。

(1) **個別授業科目の改善支援**……個々の科目を受講者がどのように学習し、どう評価しているかを項目ごとに把握することにより、次の科目改訂に際して改善すべき点の発見を容易にするような資料を提供する。

(2) **カリキュラム全体の改善支援**……専攻または領域におけるより効果的なカリキュラム構成や水準のバランス等を検討する上での有効な資料を提供する。

(3) **認証評価に関わる資料提供**……大学に対して社会的に強く求められている定期的な認証評価に際しての重要な資料を提供する。

しかし、一般の大学とは異なり、放送大学においては学生評価の結果をそうした目的にストレートに用いることが必ずしも容易でない。そこには、次のようないくつかの放送大学に固有の条件と特殊事情があり、結果の利用には一定の留保が求められることになるのである。まず第一に、放送大学では、収録された放送授業を4年間継続して放送する原則になっていることである。そのため、たとえ授業評価で改善点が明確に示唆されたとしても、即座にそれを改善する(つまり改訂版を収録する)ということが非常に難しいのである。第二に、放送大学の科目担当者は客員であることが多く、その場合、必ずしも科目の改訂を同一教員がするとは限らないことである。担当者が交代すると、科目自体の内容や構成が全く変わってしまうため、前科目に対する評価は往々にして参考程度の意味しか持たないことになるのである。第三に、放送大学は公開大学であり入学試験がないこともあって、他の一般大学に比して学生集団は多様で流動的であり、そこに一定のまとまった特性を求めることは難しい。授業評価で得られた結果も他の大学よりはるかに分散が大きいことが容易に予想される。したがって、たとえ結果を得たとしても、どの層の学生をターゲットとして授業改善をしていったらよいのか、必ずしも明確ではないのである。事実、過去の数次にわたる学生調査で毎回見られることであるが、例えば、「放送教材と印刷教材はできるだけ同一の内容に」と「放送教材と印刷教材の内容

が同じでは別の教材である意味がない」とは、常に同じくらい多く見られる意見である。もちろん、そうした意見の平均や中間点を採用してもあまり意味がないことはいうまでもない。そして、第四に、放送大学は開学以来、教員の5年任期制を採ってきており、再任のためには5年ごとの内部審査の通過が必要とされることである。そのため、個々の教員の評価にストレートに結びつきがちな授業評価の実施に対しては、当初より慎重論も決して少なくなかった。したがって、授業評価に関しては、授業改善あるいはカリキュラム改善のためにのみ結果を用いる、という確たる合意が必要とされたのである。

そうした制約条件はあったものの、先述のように遠隔教育の問題点を数多く抱えていた放送大学では、問題点や制約条件を勘案し、方法を模索しながら、学生による授業評価の実施に向けての具体的な検討を2004年度より続けてきた。そこで一貫して検討されたことは、どのようにしたらできるだけ多くの学生から意味のある重要な評価情報を得ることができるか、ということであった。そのため、以前実施された何回かの同種の調査に比べ、格段に質問数が少なく、回答し易い調査票を目指した。また、具体的な科目の改善に際しては、自由記述部分が非常に重要な意味を持つというこれまでの経験を踏まえ、調査票のボリュームの半分(片面)を自由記述部分に充てた。その結果、以下のような内容と形態の授業評価調査を企画し実施することとなった。

### I - 3 構成と内容

今回の学生による科目評価調査は、大きく分けて3つの部分からなっている。第1は、当該科目の放送教材、印刷教材、単位認定試験等について4段階で評価する25項目の評定尺度質問である。その内容は、まず放送教材に関する評価、ついで印刷教材に関する評価、通信指導・単位認定試験に関する評価、そして全体的評価と満足感である。その細目は「放送授業の視聴状況」「授業の難しさ」「分量の多さ」「講師の説明の分かりやすさ、熱意」「テレビの場合の図表・ビデオ利用の適切さ」「ラジオ科目の適切さ」「印刷教材の難しさ」「印刷教材の分量の多さ」「印刷教材の内容の適切さ」「通信指導のコメントの適切さ」「単位認定試験の適切さ」「興味・関心・知識・能力の向上」「全体的理解しやすさ」そして「全体的満足感」といったものである。第2は、当該科目のよかった点、悪かった点、改善点および評価調査自体への意見に関する質問であり、自由に記述してもらおう形態を採った。そして、第3は属性に関するフェースシートである。実際に使用した票の表面と裏面を次頁と次々頁に掲げる。

# 学生による授業評価調査票

科目名

授業科目コード									
0	○	○	○	○	○	○	○	○	○
1	○	○	○	○	○	○	○	○	○
2	○	○	○	○	○	○	○	○	○
3	○	○	○	○	○	○	○	○	○
4	○	○	○	○	○	○	○	○	○
5	○	○	○	○	○	○	○	○	○
6	○	○	○	○	○	○	○	○	○
7	○	○	○	○	○	○	○	○	○
8	○	○	○	○	○	○	○	○	○
9	○	○	○	○	○	○	○	○	○

<p>[記入例]</p> <p>(良い例) ●</p> <p>(悪い例) ⊙ ⊖ ⊗</p>	<p>[記入上の注意]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. HB以上の濃さの鉛筆(シャープペンシル可)をご使用ください。</li> <li>2. 訂正する場合は、必ずプラスチック消しゴムで完全に消してからご訂正ください。</li> <li>3. 機械で読み取りますので、用紙を折り曲げたり汚したりしないでください。</li> </ol>
--	--

I この授業科目を学習して、あなたはどのような印象や感想をお持ちになりましたか。次の1～25のそれぞれについて、あてはまる程度を4段階で評価し、マークしてください。(この面が済みましたら裏面にもお答えください。)

(注) 通信指導を提出していない方、単位認定試験を受験していない方についても、回答できる範囲でお答えください。

あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
-------	---------	------------	---------

1. 全体として、この科目の学習に熱心に取り組んだ。	○	○	○	○
2. 授業科目案内などであらかじめこの科目の内容を調べてから受講した。	○	○	○	○
<b>&lt;放送授業&gt;</b>				
3. 放送授業を十分に視聴した。	○	○	○	○
4. 自分にとって放送授業の内容は難しすぎと感じた。	○	○	○	○
5. 放送授業の内容は分量が多すぎと感じた。	○	○	○	○
6. 講師の説明はポイントを抑え、分かりやすかった。	○	○	○	○
7. 講師の熱意が十分に伝わった。	○	○	○	○
8. 放送授業は印刷教材をよく理解するのに役立った。	○	○	○	○
(テレビ科目についてのみお答えください)				
9. 図表やビデオ映像などが適切に用いられ、内容の理解に役立った。	○	○	○	○
(ラジオ科目についてのみお答えください)				
10. 授業内容はラジオでの講義に適したものだ。	○	○	○	○
<b>&lt;印刷教材&gt;</b>				
11. 印刷教材を熱心に学習した。	○	○	○	○
12. 自分にとって印刷教材の内容は難しすぎと感じた。	○	○	○	○
13. 印刷教材の内容は分量が多すぎと感じた。	○	○	○	○
14. 印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった。	○	○	○	○
15. 図表や写真などが適切に用いられ、内容の理解に役立った。	○	○	○	○
16. 印刷教材は放送授業をよく理解するのに役立った。	○	○	○	○
<b>&lt;通信指導・単位認定試験&gt;</b>				
17. 通信指導のコメントは、納得のいくものだった。	○	○	○	○
18. 通信指導は学習内容の理解に役立った。	○	○	○	○
19. 単位認定試験の問題は、科目内容の理解度をはかるのにふさわしい内容だった。	○	○	○	○
<b>&lt;全体評価&gt;</b>				
20. 学習意欲や興味・関心が高まる授業内容だった。	○	○	○	○
21. 新しい知識や能力が身についた。	○	○	○	○
22. 視野が広がったり、考え方が深まったりした。	○	○	○	○
23. 他の学生にもこの科目の履修を勧めたい。	○	○	○	○
24. この科目の内容を全体としてよく理解できた。	○	○	○	○
25. この科目の内容には全体として満足している。	○	○	○	○

裏面に続きます。

30565



II 次の点について、気づいたことを自由にお書きください。

- ・ この科目で良かったと思う点や興味深かった点、さらに学んでみたいと思う点についてお書きください。

- ・ この科目で特に改善すべきと感じた点についてお書きください。

- ・ このアンケートについてのご意見・ご感想があればお書きください。

III あなたご自身についてお答えください。(右側の欄の数字にマークしてください。)

・ 学生種別	全科履修生(1. 生活と福祉 2. 発達と教育 3. 社会と経済 4. 産業と技術	1 ○	2 ○	3 ○	4 ○
	5. 人間の探究 6. 自然の理解) 7. 選科履修生 8. 科目履修生	5 ○	6 ○	7 ○	8 ○
・ 性別	1. 男性 2. 女性	1 ○	2 ○		
・ 年齢	1. 19歳以下 2. 20～29歳 3. 30～39歳 4. 40～49歳	1 ○	2 ○	3 ○	4 ○
	5. 50～59歳 6. 60～69歳 7. 70歳以上	5 ○	6 ○	7 ○	
・ 職業	1. 公務員等 2. 教員 3. 会社員 4. 個人営業・自営業	1 ○	2 ○	3 ○	4 ○
	5. 農業等 6. 看護師等 7. 家事専業 8. パート・アルバイト	5 ○	6 ○	7 ○	8 ○
	9. 他大学等の学生 10. 無職 11. その他 ( )	9 ○	10 ○	11 ○	

IV この科目の通信指導と単位認定試験についてお答えください。(右側の欄の数字にマークしてください。)

1. 通信指導を提出し、単位認定試験を受験した。	1 ○	2 ○	3 ○	
2. 通信指導を提出したが、単位認定試験は受験しなかった。				
3. 通信指導を提出しなかった。				

以上です。どうもありがとうございました。

30565

#### I - 4 方法と期間

今回、評価の対象としたのは、2005年度1学期に本学で開講していた学部科目296のうち、原則として開講2年目の授業科目である。全科目としなかったのは、3年目以降の科目ではすでに担当する主任講師も決まりシラバスも作成されるなど、次期に向けての改訂作業が進められており、授業改善、カリキュラム改善という目的に十分役立てることができない、あるいは開講したばかりの科目では結果が出ても改訂までに間が空きすぎるなど、本学の特殊事情を勘案してのことである。今回は授業評価として第1回目であり、かつ「試行」という目的もあったため、開講2年目の科目に加えて、「歴史・地域文化」「産業・経営」そして「物質・宇宙」の3領域に所属する全科目もその対象とした。領域におけるカリキュラム構成検討に際し資料として有効か否かを検証するねらいによるものである。また、専任教員の担当科目はできうる限り対象とすべきだという考え方から、開講2年目の科目のない専任教員に関しては、1年目もしくは3年目の科目も対象とした。その結果、対象となったのは開講2年目の科目数よりも40科目ほど多い109科目となった。それら109科目の受講登録者全体の母集団から各科目200名ずつを無作為抽出して得られたサンプルに対し、回答して欲しい科目を予め指定した上で調査票を郵送で配布した。受講者200名以下の科目については全受講者を対象者としたため端数が生じ、送付した調査票数は延べ数で計21,619票となった(1人に2~3枚の票が送付される場合もあるため、実人数はこれよりも少ない)。

回収も郵送によった。調査期間は8月9日~9月8日の1ヶ月間である。回答者は8,973名であった。無記名調査ながら有効回答率は41.5%と低めであった。これまで本学で実施された類似の調査では、サンプルを単位認定試験受験者に限定したため、ほぼ7割の回収率があったが、科目登録者中の単位認定試験受験者が毎学期平均して60%程度であることを考えれば、それらに比して特に低い回収率ではないと考えられる。というのも、途中で履修を止めた場合、こうした評価調査に対する回答率はきわめて低く、今回の調査でも単位認定試験未受験者からの回答は全回答票の16.6%に過ぎなかったからである。

#### I - 5 評価(回答)者の特性

回答者の属性別分布は次頁の表に示したとおりであった。母集団の分布と比較すると、性別では男性に、年齢階層別では高齢層に、学生種別では全科履修生に、それぞれ若干偏っていることがわかる。結果を見る際には、そうした点に関しても注意が必要となろう。

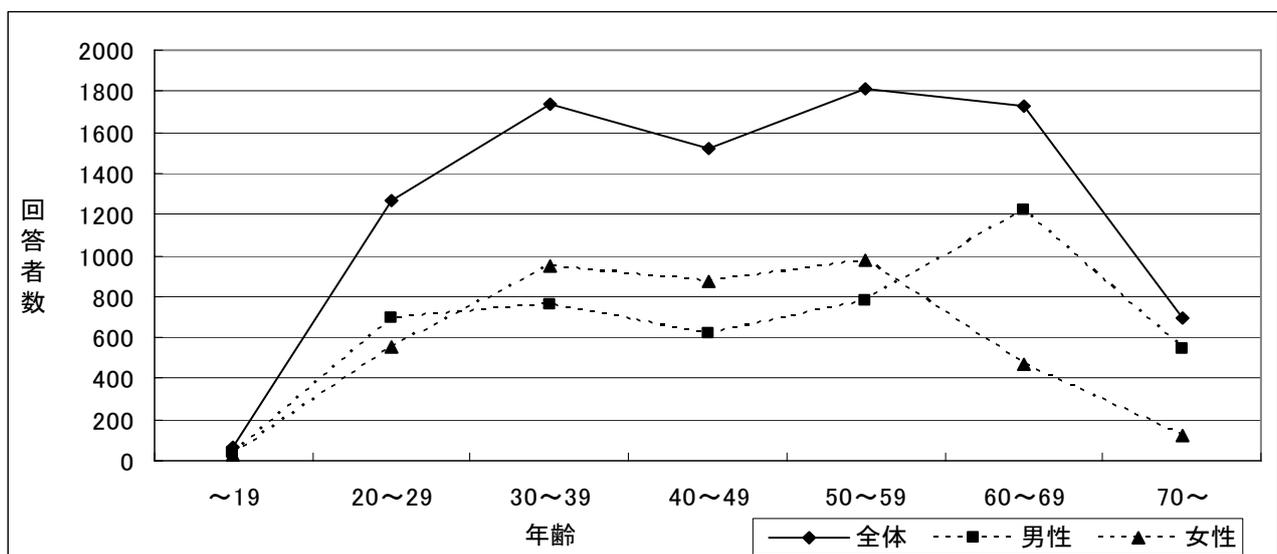
表 1 回答者と母集団との属性比較

	性別		年齢階層別							学生種別		
	男性	女性	-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-	全科生	選科生	科目生
回答者の属性	51.9	44.4	0.7	14.1	19.4	17.0	20.2	19.3	7.7	75.2	16.2	6.9
母集団の属性	42.0	58.0	1.2	17.2	28.2	22.6	17.4	13.4		68.4	21.9	9.7

(単位:%)

回答者の特性を把握するため、以下、回答者全体を種々の属性別に図示しておくことにしよう。そうすることで、回答者の全体像がいつそうはっきりとしたものとなると思われるからである。

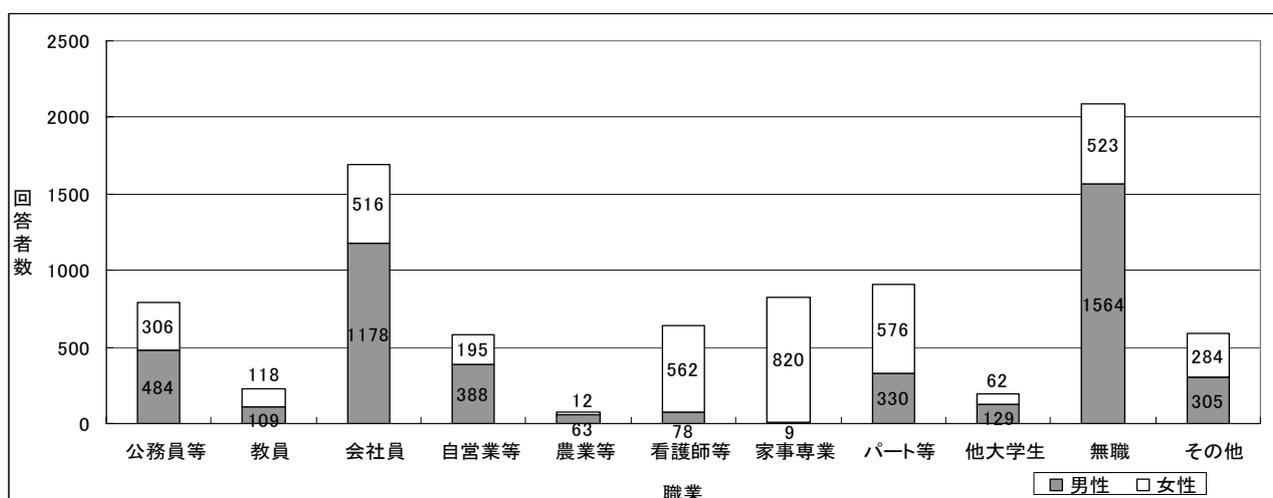
図 1 年齢階層別回答者数（全体、男女別）



まず、年齢階層別に回答者数を見ると、全体では 50 代（1,812 名）が多く、次に 30 代（1,739 名）、60 代（1,728 名）が続いている。折れ線は M 字型を示しており 40 代で若干少なくなるものの、30 代から 60 代はほぼ一定の回答者数を得られているといえるだろう。表 1 の各年齢階層の比率と併せて見ると、高齢者層ほど回答率が高くなっていることが見て取れる。男女別で見ると、30 代から 50 代では女性の回答者数が男性を上回っているのに対し、60 代ではその関係が逆転していることがわかる。60 代では男性の回答者数が女性の約 2.5 倍の数を示しており、また男性の 30 代から 50 代と比べても 1.5 倍以上の値を示していることから、こうした年代の回答を見る場合、やや男性に偏った傾向が生じていることを念頭に置く必要があるといえよう。

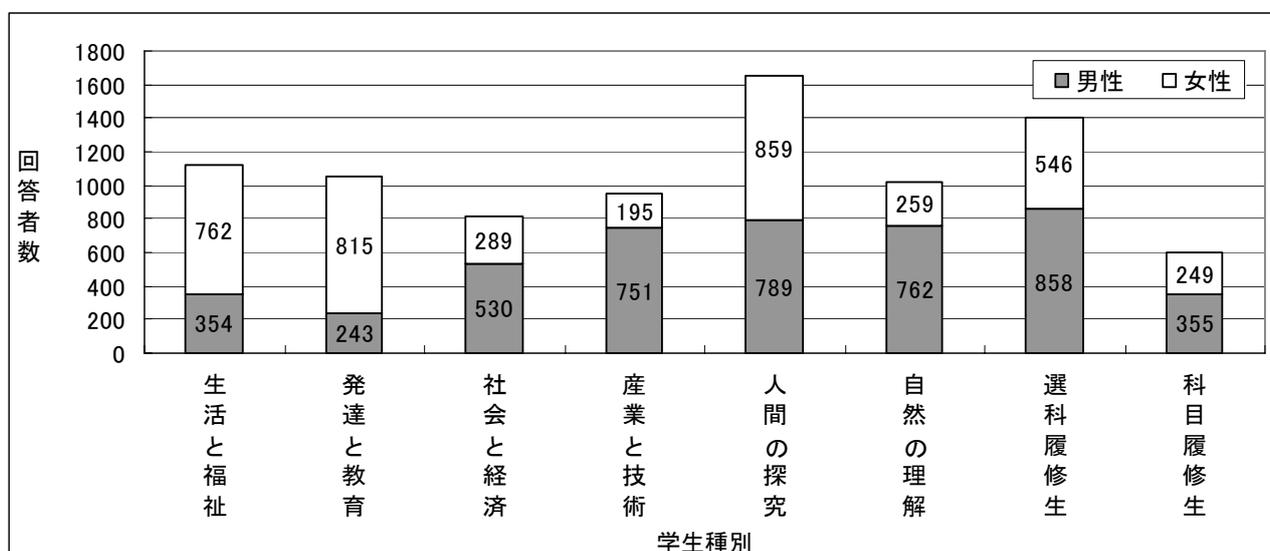
ついで、職業別に回答者数の傾向を見てみよう。図 2 のように回答者数をフェースシートの分類そのままの 11 職種別で見ると、全体的な数では無職（2,138 名）が最も多いことがわかる。

図 2 11 職種別回答者数（全体、男女別）



これは先に年齢別の回答者数のところで言及したように、定年および退職後の男性の数が影響していると考えられる。評価結果の全体的な解釈にあたっては、この無職層、特に男性無職層の回答傾向に十分注意する必要がある。それに続いて回答者数が多いのは、会社員（1,735名）、パート・アルバイト（930名）である。男女別で見ると、男性ではやはり無職（1,568名）が多く、次いで会社員（1,178名）、公務員（484名）となっている。女性では家事専業（820名）が最も多く、次いでパート・アルバイト（576名）、看護師等（562名）というように、女性比率の高い職種が回答者数に反映されていると見ることができる。先に見たように、30代から50代で男性より女性の回答者数が多かったことを考え併せると、今回の評価結果の分析にあたっては、とりわけ年齢階層別の解釈において、これらの職種の影響を無視することはできないものと考えられる。

図 3 学生種別回答者数



学生種ごとに回答者数を見ると、全体で最も回答者数が多いのは「人間の探究」

の探究」に所属する全科履修生である。科目履修生が最も少ないのは学生全体の構成から見て当然のことであるが、全科履修生だけを見ると、「人間の探究」が最も多い。一方、最も少ないのは、母集団で最も学生数の少ない「産業と技術」ではなく、「社会と経済」の回答者数であった。これは、先にふれたように、対象科目の選定に当たって「歴史・地域文化」「産業・経営」「物質・宇宙」の3領域で全科目を選んだことによる結果である。全体的な傾向を見る際には、そうしたバイアスにも十分注意する必要がある。また、男女別で見ると、学生の所属する専攻によってその比率が大きく異なっていることにも留意したい。「生活と福祉」と「発達と教育」では回答者数の3分の2以上が女性であるのに対し、「産業と技術」「自然の理解」および「社会と経済」では反対に男性比率が非常に大きい。分析にあたっては、こうした学生種ごとの性別構成の差異にも注意する必要がある。

#### I - 6 評価結果の提供と公表

本授業評価は、先にも掲げたように「個別授業科目の改善支援」「カリキュラム全体の改善支援」「認証評価に関わる資料提供」という三つの大きな目的のもとに企画され、実施された。そのことを勘案したワーキンググループでの検討の結果、得られたデータは次のように資料提供されることとなった。

(1) 当該科目を担当した主任講師への提供……担当科目の詳細な評価結果の提供、および対象となった109科目の結果概要一覧表の提供。担当科目の評価結果には、全体平均と比較した選択項目の平均値および属性項目をのぞいた自由記述部分の原票コピーが含まれる。ただし、主任講師が客員教員である場合には、109科目の結果概要一覧表の提供は行わない。

(2) 対象となった3領域の領域代表者への提供……当該領域に属する科目すべてに関して上記の資料一式を提供する。

(3) 教授会および教育課程編成委員会等関連委員会への提供……大学全体のカリキュラム編成に関しての検討や意志決定に際しての資料とするため、109科目の結果概要一覧等を必要に応じて教授会、各委員会に提供する。

実際に主任講師等へ提供された個別科目に関する資料の形態は、12頁～14頁にサンプルを示した通りである。また、109科目の結果概要一覧については、巻末の付録に示してある。参照されたい。

さて、収集された授業評価の結果を授業改善の目的で用いるのはもちろんであるが、それに加えて、現在では大学の社会的責務として評

価結果の公表が強く求められているところである。ワーキンググループでは、その問題に関しても詳細に検討した。その結果、以下のような合意に達し、それを基本的な方針とすることが決められた。

#### (1) 公表への基本姿勢

授業評価の結果については、基本的にできる限り広く社会に提示することが必要である。放送大学に課せられた社会的使命、教育体系全体における位置付け、そして納税者国民へのアカウントビリティ等を勘案するならば、いうまでもなくそれが理の当然であるといえる。しかしながら、それを直ちに完全な形で実施するとなると、現実には解決すべき問題も決して少なくない。そこで、将来的には完全公表という目標を掲げつつ、当面は以下に示すような形態の公表を行っていくものとする。

#### (2) 公表する内容

以下のデータに関して公表するものとする。

- ①調査の概要：授業評価の目的、方法、実施期間、対象科目名、サンプリングされた学生数等
- ②回答者の概要：基本属性別に見た有効回答者の分布
- ③評点平均：全対象科目を総計した結果について、回答者の属性別、科目の分野別、メディア別等々でグループ化した設問ごとの評点平均値
- ④自由記述の概略：特徴的・代表的な記述（ネガティブな評価の場合はできるだけ科目名が特定されないように処置）

#### (3) 公表の方法

報告書による公表を基本とする。報告書は各学習センターおよび付属図書館内において一般の閲覧に供する。その内容は、放送大学のホームページからもアクセスできるよう、電子化したうえでウェブ上にアップロードする。また、結果の概要に関しては、「大学の窓」と On Air 紙上でも適宜公表する。

#### (4) 公表の時期

実施した授業評価調査の結果は、当該年度末に上記の方法で公表するものとする。

平成17年度学生による授業評価の調査結果（単純集計）

科目名（コード）： ○ ○ ○ ○

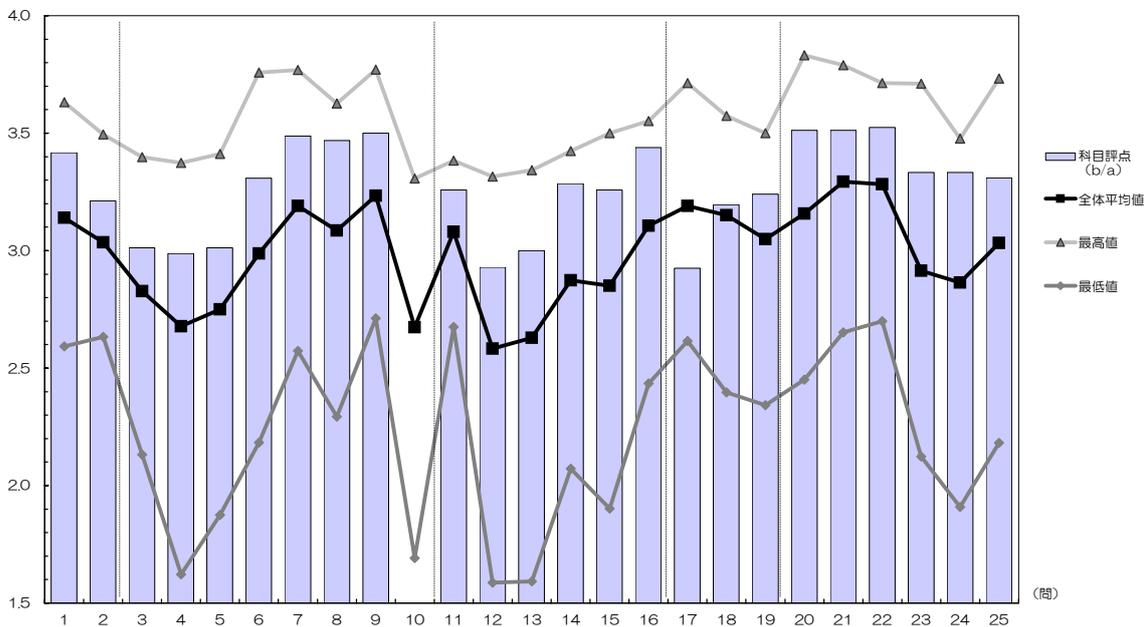
教員氏名： ○ ○ ○ ○

1. 各設問における評点

	設問内容	有効回答 (a)	評点合計 (b)	科目評点 (b/a)	各種平均評点			レンジ	
					全体平均値	TV又はRのみ	同一専攻のみ	最高値	最低値
問 1	全体として、この科目の学習に熱心に取り組んだ。	84	287	<b>3.42</b>	3.14	3.16	3.03	3.63	2.59
問 2	授業科目案内などであらかじめこの科目の内容を調べてから受講した。	85	273	<b>3.21</b>	3.04	3.04	2.96	3.50	2.63
問 3	放送授業を十分に視聴した。	85	256	<b>3.01</b>	2.83	2.90	2.70	3.40	2.13
問 4	自分にとって放送授業の内容は難しすぎと感じた。	82	245	<b>2.99</b>	2.68	2.67	2.62	3.37	1.62
問 5	放送授業の内容は分量が多すぎと感じた。	82	247	<b>3.01</b>	2.75	2.76	2.75	3.41	1.88
問 6	講師の説明はポイントを抑え、分かりやすかった。	81	268	<b>3.31</b>	2.99	3.03	2.90	3.76	2.18
問 7	講師の熱意が十分に伝わった。	80	279	<b>3.49</b>	3.19	3.22	3.16	3.77	2.57
問 8	放送授業は印刷教材をよく理解するのに役立った。	79	274	<b>3.47</b>	3.09	3.14	2.99	3.63	2.29
問 9	(テレビ科目) 図表やビデオ映像などが適切に用いられ、内容の理解に役立った。	80	280	<b>3.50</b>	3.23	3.23	3.15	3.77	2.71
問 10	(ラジコ科目) 授業内容はラジコでの講義に適したものだ。	-	-	-	2.67	-	2.77	3.31	1.69
問 11	印刷教材を熱心に学習した。	85	277	<b>3.26</b>	3.08	3.06	3.03	3.38	2.68
問 12	自分にとって印刷教材の内容は難しすぎと感じた。	85	249	<b>2.93</b>	2.58	2.57	2.58	3.31	1.59
問 13	印刷教材の内容は分量が多すぎと感じた。	85	255	<b>3.00</b>	2.63	2.62	2.64	3.34	1.59
問 14	印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった。	84	276	<b>3.29</b>	2.87	2.87	2.81	3.42	2.07
問 15	図表や写真などが適切に用いられ、内容の理解に役立った。	85	277	<b>3.26</b>	2.85	2.96	2.76	3.50	1.90
問 16	印刷教材は放送授業をよく理解するのに役立った。	82	282	<b>3.44</b>	3.11	3.13	2.99	3.55	2.43
問 17	通信指導のコメントは、納得のいくものだった。	80	234	<b>2.93</b>	3.19	3.22	3.07	3.71	2.62
問 18	通信指導は学習内容の理解に役立った。	82	262	<b>3.20</b>	3.15	3.18	3.03	3.57	2.40
問 19	単位認定試験の問題は、科目内容の理解度ををはかるのにふさわしい内容だった。	79	256	<b>3.24</b>	3.05	3.05	3.01	3.50	2.34
問 20	学習意欲や興味・関心が高まる授業内容だった。	84	295	<b>3.51</b>	3.16	3.18	3.08	3.83	2.45
問 21	新しい知識や能力が身についた。	84	295	<b>3.51</b>	3.29	3.30	3.26	3.79	2.65
問 22	視野が広がったり、考え方が深まったりした。	84	296	<b>3.52</b>	3.28	3.28	3.28	3.71	2.70
問 23	他の学生にもこの科目の履修を勧めたい。	84	280	<b>3.33</b>	2.91	2.92	2.86	3.71	2.12
問 24	この科目の内容を全体としてよく理解できた。	84	280	<b>3.33</b>	2.86	2.88	2.77	3.48	1.91
問 25	この科目の内容には全体として満足している。	84	278	<b>3.31</b>	3.03	3.05	2.90	3.73	2.18

(注) 設問4・5・12・13については、評価基準が逆であるため、数値を逆転(4→1、3→2、2→3、1→4)して集計している。

(評点)



2. 有効回答者の属性

(単位：人)

学生種別	全科履修生							小計	選科履修生	科目履修生	無記入	計
	生活と福祉	発達と教育	社会と経済	産業と経済	人間の探究	自然の理解						
	12	55	3	2	1	0	73	8	4	0	85	
性別	男	女	無記入									
	23	62	0									
年齢	19歳以下	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70歳以上	無記入				
	1	21	25	21	12	2	2	1				
職業	公務員等	教員	会社員	個人営業・自営業	農業等	看護師等	家事専業	パート・アルバイト	他大学等の学生	無職	その他	無記入
	6	6	16	3	2	12	7	11	0	15	7	0
通信指導の提出及び単位認定試験受験の有無	単位認定試験受験	単位認定試験未受験	通信指導未提出	無記入								
	79	3	2	1								

平成17年度学生による授業評価(属性別クロス集計)

		問1						問2							
		評点平均	選択肢別の回答割合					評点平均	選択肢別の回答割合						
			4	3	2	1	無回答		4	3	2	1	無回答		
学生種別	全 科 履 修 生	生活と福祉	3.00	33%	42%	0%	17%	8%	3.42	67%	8%	25%	0%	0%	
		発達と教育	3.55	60%	35%	5%	0%	0%	3.18	51%	25%	15%	9%	0%	
		社会と経済	4.00	100%	0%	0%	0%	0%	3.67	67%	33%	0%	0%	0%	
		産業と技術	2.50	50%	0%	0%	50%	0%	2.50	50%	0%	0%	50%	0%	
		人間の探究	3.00	0%	100%	0%	0%	0%	2.00	0%	0%	100%	0%	0%	
		自然の理解	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		小計	3.44	56%	34%	4%	4%	1%	3.21	53%	22%	16%	8%	0%	
	選科履修生	3.25	50%	38%	0%	13%	0%	3.25	63%	13%	13%	13%	0%		
	科目履修生	3.25	50%	25%	25%	0%	0%	3.25	50%	25%	25%	0%	0%		
	無記入	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
	計	3.42	55%	34%	5%	5%	1%	3.21	54%	21%	16%	8%	0%		
性別	男性	3.61	61%	39%	0%	0%	0%	3.22	52%	22%	22%	4%	0%		
	女性	3.34	53%	32%	6%	6%	2%	3.21	55%	21%	15%	10%	0%		
	無記入	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
	計	3.42	55%	34%	5%	5%	1%	3.21	54%	21%	16%	8%	0%		
年齢	19歳以下	4.00	100%	0%	0%	0%	0%	4.00	100%	0%	0%	0%	0%		
	20~29歳	3.43	52%	43%	0%	5%	0%	3.24	62%	10%	19%	10%	0%		
	30~39歳	3.36	60%	24%	8%	8%	0%	3.12	52%	20%	16%	12%	0%		
	40~49歳	3.30	43%	43%	5%	5%	5%	3.29	57%	24%	10%	10%	0%		
	50~59歳	3.67	67%	33%	0%	0%	0%	3.08	33%	42%	25%	0%	0%		
	60~69歳	4.00	100%	0%	0%	0%	0%	3.00	50%	0%	50%	0%	0%		
	70歳以上	3.50	50%	50%	0%	0%	0%	4.00	100%	0%	0%	0%	0%		
	無記入	2.00	0%	0%	100%	0%	0%	3.00	0%	100%	0%	0%	0%		
計	3.42	55%	34%	5%	5%	1%	3.21	54%	21%	16%	8%	0%			
職業	公務員等	3.50	50%	50%	0%	0%	0%	2.50	17%	33%	33%	17%	0%		
	教員	3.40	50%	17%	17%	0%	17%	3.50	67%	17%	17%	0%	0%		
	会社員	3.50	63%	31%	0%	6%	0%	2.94	50%	13%	19%	19%	0%		
	個人営業・自営業	3.67	67%	33%	0%	0%	0%	3.67	67%	33%	0%	0%	0%		
	農業等	4.00	100%	0%	0%	0%	0%	2.50	50%	0%	0%	50%	0%		
	看護師等	2.92	33%	42%	8%	17%	0%	3.25	50%	25%	25%	0%	0%		
	家事専業	3.86	86%	14%	0%	0%	0%	3.29	43%	43%	14%	0%	0%		
	パート・アルバイト	3.73	73%	27%	0%	0%	0%	3.45	64%	18%	18%	0%	0%		
	他大学等の学生	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
	無職	3.20	40%	47%	7%	7%	0%	3.33	60%	20%	13%	7%	0%		
	その他	3.29	43%	43%	14%	0%	0%	3.43	71%	14%	0%	14%	0%		
	無記入	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
計	3.42	55%	34%	5%	5%	1%	3.21	54%	21%	16%	8%	0%			
適 用 指 導 ・ 単 位 認 定 試 験 の 受 験 有 無	受験	3.53	58%	35%	4%	1%	1%	3.24	56%	20%	16%	8%	0%		
	未受験	2.33	33%	0%	33%	33%	0%	2.67	33%	33%	0%	33%	0%		
	適性指導未提出	1.00	0%	0%	0%	100%	0%	3.00	50%	0%	50%	0%	0%		
	無記入	3.00	0%	100%	0%	0%	0%	3.00	0%	100%	0%	0%	0%		
	計	3.42	55%	34%	5%	5%	1%	3.21	54%	21%	16%	8%	0%		

(注) 各問の「選択肢別の回答割合」については小数点第一位を四捨五入しているため、必ずしも100%になるとは限らない。

II 次の点について、気づいたことを自由にお書きください。

- ・この科目で良かったと思う点や興味深かった点、さらに学んでみたいと思う点についてお書きください。

心理学に関して基礎的な部分が広い視野で全体に理解できたところが良かったです。

- ・この科目で特に改善すべきと感じた点についてお書きください。

1回1回の授業の内容の濃度にいかがあるように思いました。もう少レ、1回1回の授業で理解すべき内容が明確で、同レベルのものだとより良いと思えました。

- ・このアンケートについてのご意見・ご感想があればお書きください。

1人でも多くの授講生の意見を反映して良リ充実した授業になるよう、少しでも力になればと思います。

III あなたご自身についてお答えください。(右側の欄の数字にマークしてください。)

・ 学生種別	全科履修生(1. 生活と福祉 2. 発達と教育 3. 社会と経済 4. 産業と技術	1 ○	2 ○	3 ○	4 ○
	5. 人間の探究 6. 自然の理解) 7. 選科履修生 8. 科目履修生	5 ○	6 ○	7 ○	8 ○
・ 性別	1. 男性 2. 女性	1 ○	2 ○		
・ 年齢	1. 19歳以下 2. 20～29歳 3. 30～39歳 4. 40～49歳	1 ○	2 ○	3 ○	4 ○
	5. 50～59歳 6. 60～69歳 7. 70歳以上	5 ○	6 ○	7 ○	
・ 職業	1. 公務員等 2. 教員 3. 会社員 4. 個人営業・自営業	1 ○	2 ○	3 ○	4 ○
	5. 農業等 6. 看護師等 7. 家事専業 8. パート・アルバイト	5 ○	6 ○	7 ○	8 ○
	9. 他大学等の学生 10. 無職 11. その他 ( )	9 ○	10 ○	11 ○	

IV この科目の通信指導と単位認定試験についてお答えください。(右側の欄の数字にマークしてください。)

1. 通信指導を提出し、単位認定試験を受験した。	1 ○	2 ○	3 ○
2. 通信指導を提出したが、単位認定試験は受験しなかった。			
3. 通信指導を提出しなかった。			

以上です。どうもありがとうございました。

30565

